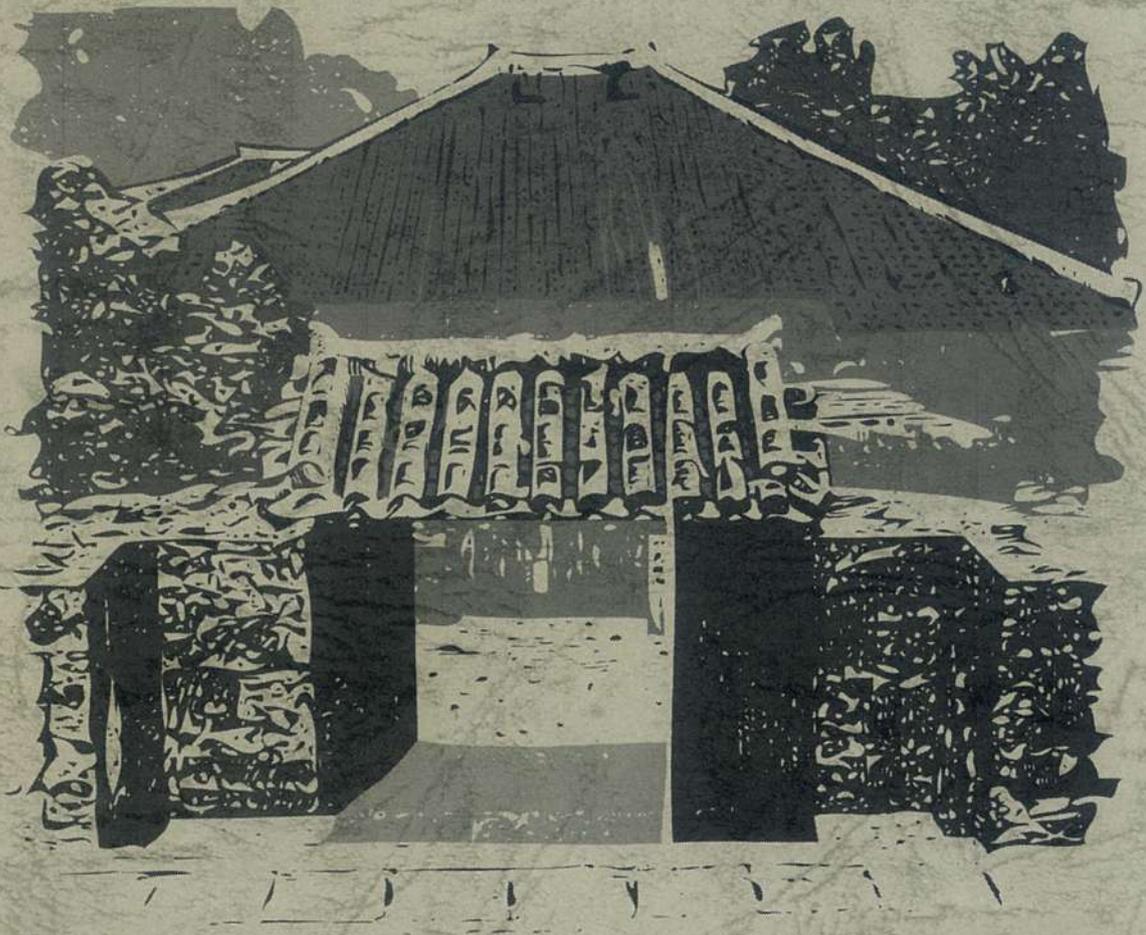


平成21年度

# 沖縄県海外留学生修了報告書



沖 縄 県

財団  
法人

沖縄県国際交流・人材育成財団

## はじめに

海外留学生受入事業は、沖縄県出身移住者の子弟及び歴史的に繋がり深いアジア諸国から優秀な人物を県内の大学で修学させ、日本・沖縄の文化を理解し県民との交流を深めてもらうことにより、本県と移住先国及びアジア諸国等との友好親善の推進に寄与する人材の育成を目的としています。

昭和44年度(1969年)の事業開始以来、本年度を含め554人の留学生を受け入れてきました。留学を修了し帰国した留学生は、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成21年度は、北米、南米及びアジアの6カ国1地域から12名を受入れ、そのうち7名が琉球大学、4名が沖縄県立芸術大学、1名が名桜大学において勉学等に励みました。1年間の沖縄滞在を通して、沖縄の歴史や文化等について深く学ぶとともに、お互いの交流を通して友情を育み、ウチナーネットワークを身近なものにすることができたと思います。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

当事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成22年3月

沖縄県観光商工部長 勝目 和夫



平成21年度沖縄県海外留学生修了式 平成22年3月3日 於：サザンプラザ海邦

安里副知事表敬 平成21年5月21日 於：県庁6階第2特別会議室



仲村財団理事長表敬 平成21年5月21日 於：財団3階ホール



## 目 次

### ○海外移住者子弟留学生(9名)

・大切な思い出	嘉陽 達也	P 1
・沖縄のにつけいだからよかった	マッキーナ ヴィカーシャ イーズリー	P 5
・琉球・ルーツ	呉 ブランドン 明男	P10
・色々な沖縄	新城 ナオミ アンジェリカ	P12
・大実現な時期	諸見里 イーゴル 真	P17
・絆	比嘉 屋宜 パトリシア 春美	P20
・沖縄、ありがとう！私の人生を変えてくれて...	島袋 桑江 フィオレラ アンジェリー	P23
・一生忘れない島	西郷 エバンヘリナ	P26
・沖縄最高！！！！！！	仲里 ソランジェ	P30

### ○アジア諸国等海外留学生(3名)

・沖縄での日々	王 慧群	P34
・かけがえのないニューデー	盧 惠文	P40
・沖縄、ありがとう	陳 豪君	P49

## 平成21年度沖縄県海外留学生名簿

### 1 海外移住者子弟留学生（琉球大学 4名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	嘉陽 達也 TATSUYA KAYO	カナダ CANADA	琉球大学 共通教育等・法文学部 科目等履修生
	マッキーナ ヴィカーシャ イーズリー EASLEY MC KENNA VIKASHAA	アメリカ U.S.A	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	島袋 桑江 フィオレラ ア ンジェリー FIORELLA ANGELLY SHIIMABUKO KUWAE	ペルー PERU	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	仲里 ソランジェ SOLANGE NAKAZATO	アルゼンチン ARGENTINA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生

### 2 海外移住者子弟留学生（沖縄県立芸術大学 4名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	呉 ブランドン 明男 BRANDON AKIO ING	アメリカ U.S.A	沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球古典音楽コース 科目等履修生
	新城 ナオミ アンジェリカ ANGELICA NAOMI ARASHIRO	ブラジル BRASIL	沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース 科目等履修生

	諸見里 イーゴル 真 IGOR SHIN MOROMISATO	ブラジル BRASIL	沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 科目等履修生
	西郷 エバンヘリナ EVANGELINA SAIGO	アルゼンチン ARGENTINA	沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 科目等履修生

### 3 海外移住者子弟留学生 (名桜大学 1名)

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	比嘉 屋宜 パトリシア 春美 PATRICIA HARUMI HIGA YAGUI	ペルー PERU	名桜大学 科目等履修生 (日本語、日本事情等)

### 4 アジア諸国等海外留学生 (琉球大学 3名)

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	王 慧群 WANG HUI QUN	中 国 CHINA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	盧 惠文 LU HUI WEN	台 湾 TAIWAN	琉球大学 共通教育等・法文学部 科目等履修生
	陳 豪君 CHEN HAO CHUN	台 湾 TAIWAN	琉球大学 共通教育等・法文学部 研究生

## “大切な思い出”

嘉陽 達也 (カナダ)

この一年間の沖縄での留学生活は私にとっては素晴らしい思い出を作ることでもできましたし、自分の成長にもなりました。私は沖縄に来て初めて、一人暮らしをしました。このおかげで私は自分でも自立できると思いました。沖縄の一人暮らしで私は人生で二回目の、洗濯をすることになりました。私は寮の人に寮の洗濯機の使い方を教えてもらい、使ってみて、キッチンと服が洗えたので、ついはいやいでしまいました。私は一人暮らしは難しいと思っていましたが、案外楽でした。

そこで私は「なんでもやってみなければわからない」ということに気付き、いい経験ができました。しかし、沖縄に来てしばらくの間、私はホームシックになってしまいました。私は一度もホームシックにかかった経験などありませんでした。このホームシックの原因は、私はカナダ育ちの日本人で、今まで自分のことを日本人だと思っていたことによるものでした。ですから沖縄にきてから生まれて初めて自分のアイデンティティーについて疑問を持つようになり、それについて考えました。

また、私は最初は自己管理ができませんでした。授業では宿題などを忘れて、うまく勉強できませんでした。実をいうと、カナダの大学では1学期で授業を三つ以上取ったことはありませんでした。琉球大学ではその倍の数の授業を取り、かなり苦労しました。しかし一ヶ月もすれば、私は全部の授業についていけるようになりました。始めの頃は、自分は勉強できない人だと思いましたが、だんだん慣れてきました。

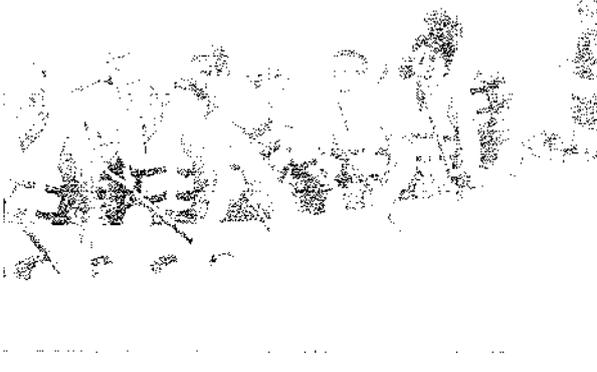
学期が二ヶ月経つ頃には、琉球大学のほかの留学生たちと一緒に古宇利島に行き、友達が沢山でき、学校の勉強と友達との遊びでホームシックなどすぐに忘れてしまいました。また、沖縄の美しい海で遊べてとても楽しかったです。私はカナダのことは忘れて、今の沖縄の生活を十分に楽しんでいました。



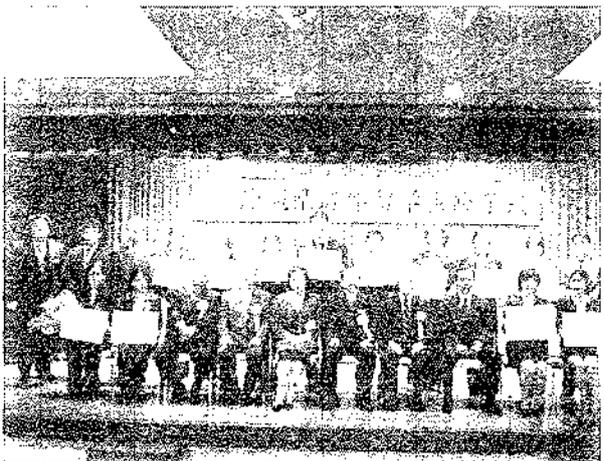
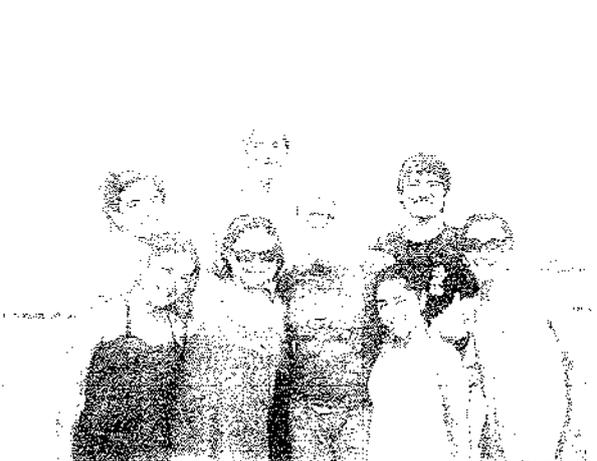
学校の授業では日本語だけでなく、沖縄の歴史についての勉強もしました。私は沖縄に来るまで沖縄についてあまり知りませんでした。でも沖縄に来て、私は自分のルーツや沖縄の歴史について色々学びました。また、沖縄についての勉強だけでなく沖縄の文化体験などができました。様々な沖縄の歴史が伝わる「ぶくぶく茶の体験」、空手、シーサーや紅型作りなどといった、カナダでは学ぶ事が出来ない多くの体験ができました。



私は沖縄にいる間、勉強だけではなく色々なボランティア活動などをしました。そのおかげで他の国の留学生と日本人の学生と友達になり、私は様々なことを体験することができました。どれもすべて素晴らしい経験でした。ムエタイのエキスヴィジョンマッチをしたりハーレーのレースに参加しました。他にもボランティア活動をしました。私は沖縄のことも知りながら、他国の人達と話し合い、様々な文化を同時に勉強できました。



振り返ってみると、一年はアツと言う間に過ぎてしまいました。私たちが去年の4月に来てから、もう3月。帰国する五日前になってしまいました。つい昨日、沖縄に着いたかのような感じがして、1年が過ぎてしまったとは信じられない気持ちです。この1年の間に、数え切れないほどの楽しい思い出を作ることができました。また、この留學生活の間に、さまざまなことを学びました。沖縄の歴史、文化、また、本からだけでは勉強できない、沖縄の人たちとの触れ合いから学んだことなど数多くあります。大切なことがたくさん学べました。さまざまな方のお陰で、県費留學生はみんな、それぞれ多くのことを経験できたと思います。



辛いこともありましたが、楽しいことの方が多かったので、私は留學して良かったと心から思っています。この県費留學の話を進められた時、私は行くか行かないか迷っていました。私は自分の日本語に自信を持っていましたが、「もし、沖縄に留學して私の日本語が通用しなか

ったらどうしよう」と心配していました。しかし、それはただの思い込みと感じ、「やってみなければわからない」という気持ちと勇気を持ってこのプログラムに参加することにしました。最初は不安でしたが、日本語が母語の本場日本で勉強でき、そのおかげで自分の日本語のレベルを上げることができました。私は自分の日本語にだんだん自信が持てるようになりました。その自信を胸に、私は学校の留学生スピーチコンテストに参加し、優秀賞を貰いました。それから沖縄県弁論大会への出場に選ばれ、その大会では優良賞を取ることが出来ました。私はその瞬間、この県費留学生のプログラムに参加して本当に良かったと思いました。精一杯勉強し、日本語を沢山話す機会に恵まれたことから、私は日本語を話せる、しっかり理解できるということが自分で認識することができ、今まで抱いていた自分の日本語に対する不安が一気に消えました。



これで、私たちの留学生生活は幕を閉じますが、これで終わりだということではありません。一つの終わりはまた新しい始まりです。ですから、これからもますます成長していけるよう、これまでの成果をいかすことが大切だと思います。沖縄で学んだこと、経験したことを忘れずに頑張りたいと思います。この一年間は私にとって素晴らしい時間でした。もし、また沖縄に留学できるというなら、またしてみたいです。私は一年間でこんなに沢山のことを勉強し理解出来るとは思っていませんでした。私の周りで前に留学したことのある人たちは、皆いい経験になったと言っているのを聞いて、私は「そんな経験ができるのか」と不信感を思っていました。今となつては、私はその人たちの話していたことが分かったような気がします。自分でもこの留学生生活を通して、成長し、少しは大人になれたと思います。この一年間は私にとって素晴らしい経験でした。

## 沖縄のにつけいだからよかった

マッケーナ ヴィカーシャー イーズリー (アメリカ合衆国)

13歳のとき、家族といっしょに沖縄からアメリカまで引っ越しました。そのときでも、いつか沖縄にもどって来ると思いました。県費の留学プログラムのことを聞いた時、とてもうれしかったです。

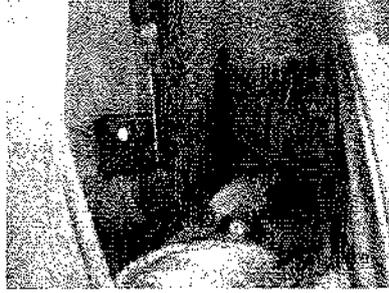
沖縄に住んでいたとき、色々な経験がいっぱいありましたが、今年、沖縄に留学して、新しい経験がいくつもありません。親戚とよく会ったり、母の友達とよく遊びに行ったり、琉大のじゅぎょうの見学に参加したり、とてもいい経験でした。



子供の時、きちの中に住んでいましたので日本人の世界はあまり経験しませんでした。今年、留学生になって、沖縄の行き方を経験しました。寮の同じ階に住んだ人と一緒にたこ焼きパーティーをして、美ら海水族館やなはハーリー祭りにも行って、とてもおもしろかったです。



沖縄の天気がとっても暑いけど沖縄人がいつも笑顔を見せています。沖縄についてから、いっぱいやさしい沖縄人に会いました。たとえば、私が病気になった時、琉大の先生が私を病院に連れて行きました。アメリカの大学の先生たちがこのことをぜんぜんしません。



沖縄事情の授業でアメリカぐんの影響について勉強しました。私のお父さんはアメリカぐんの人なので、この授業はとってもおもしろかったです。私が一番興味があるのは沖縄の人がアメリカぐんとなれています。私のおばあちゃんと一緒にベースに行く時、おばあちゃんがいつもぐんのハンバーガーを食べています。それと、おばあちゃんが、べいぐんのランクをよく知っています。とてもびっくりしました！



沖縄事情の授業で色々な新しい経験をしました。しゅりじょう、なかぐすくじょうなどを見学して、それと、授業でムチやびんがたなども作りました。この授業を受けて、とてもよかったですと思います。



沖縄に留学して、おばあちゃんとよく会いました。子供のとき、私が日本語をあまり話せなかったので、おばあちゃんと話すのが大変でした。今年、おばあちゃんの家へ行って、おばあちゃんの話がもっと聞きやすくなりました。お正月の日、おばあちゃんから、油みその作り方を習いました。その日は私の心にのこっています。



シミやおぼんのときもおばあちゃんの家へ行って、沖縄のいわいを経験しました。子供のとき、シミとおぼんの日もおばあちゃんの家に行きましたが、今年、おばあちゃんとおばさんたちをてつだって、いっぱい学びました。



今年は私の沖縄の親戚にとって、とてもいい年でした。いとこたち二人にこどもがうまれました。その二人の赤ちゃんたちは私のおばあちゃんの最初のひまごたちです。私も沖縄に来て、赤ちゃんたちと会って、とてもうれしかったです。



今年、沖縄の文化について、いっぱいやりましたが、夏休みにとかしき島とこうり島にも行きました。その二つの島は沖縄よりとても小さくて、その島の人の生き方を見ると、とてもいい経験でした。行ってとてもよかったですと思います。

沖縄に住むと毎日新しいことを習っています。

ホームシックにかかった時もありましたが、沖縄に来てとてもよかったです。

一月と二月は琉大弁論大会と沖縄県弁論大会でとても忙しかったです。私は人の前で英語のスピーチをするのはとてもはずかしくて、日本語でスピーチするのはとても大変だと思いました。けれども、今考えたら、琉大弁論大会と沖縄県弁論大会も参加して、とてもよかったですと思います。



琉大弁論大会のスピーチを思いながら、漢字もいっぱい覚えました。それと、スピーチに使った新しい言葉もいっぱい覚えました。スピーチ大会に参加して、私の日本語の勉強について、とてもよかったと思います。

沖縄に来る理由がいっぱいありました。

一番目は日本語をいっぱい習いたかったです。親戚の皆さんと話しやすくなりたいと思いました。

二番目は親戚とまた会いたかったです。私といとこたちも大人になっているので、ともだちになりたいと思いました。



三番目は私の勉強について、沖縄の文化をいっぱい習いたかったです。アメリカの大学では、私の専門は人類学です。沖縄に来るとアメリカの授業でならったこともいっぱい経験しました。

沖縄についてから、いっぱい習いました。琉大に入る前、漢字がぜんぜんわかりませんでした。今、まだ読めない言葉がいっぱいありますが、来る前に読める言葉と比べると、いっぱい読めるようになりました。今年、おばあちゃんとよく会いました。月一回、いとこといっしょにおばあちゃんのおうちに行って、おばあちゃんといっぱい話しました。沖縄のクラスとかぞくと、沖縄の文化もいっぱい経験しました。



今年、琉球大学で、沖縄で勉強して、とてもうれしいです。これから人類学と日本語の勉強をつづけて、また毎日新しいことを習い、新しい経験をしたいと思います。

この経験をもらって、心からありがとうございます。



## 琉球・ルーツ

呉ブランドン明男 (アメリカ合衆国・ハワイ)

私が子供の頃、おじいちゃんがいつも三線を練習していたのをよく覚えています。そしておばあちゃんがいつもあちこちで沖縄の踊りをやっていて、たまに私やいとこ達を参加させていました。その時からずっと琉球芸能に興味がありましたが、沖縄で勉強できるとは思いませんでした。4年前、私はハワイで三線を習い始めてから、沖縄への興味がだんだん深くなってきて、沖縄に住むことが夢になりました。子供の頃は、ただの家族の集まりだけでも、沖縄の歌で踊ったりしていましたが、今ではだんだん少なくなってきました。そのことを寂しく思っていたので、去年、沖縄県立芸術大学に留学することになってとても嬉しかったです。私の家族も、祖父母も喜びました。



祖父母

最初はドキドキしました。まず、初めての一人暮らし。その上、私の日本語はそんなに上手くありませんでした。以前から勉強していましたが、「生活できるかな?」と心配していました。でも、私の沖縄にいる親戚が、私が来るのを楽しみにしていたので最初から色々なことを助けてくれました。一緒に食事をしたり、色んな漢字を読んでくれたり、優しい日本語で話してくれました。学校のクラスメート達も、先生方も、事務職員の皆さんも優しくしてくれたので、沖縄の生活に慣れることができました。



沖縄にいる親戚

芸大の琉球古典音楽コースの授業で琉球伝統的な楽器を全て習いました。太鼓、胡弓、笛、琴、踊りも学ぶことができました。これからも、勉強したことを忘れないようにしようと思っています。私にとって、一番難しいのは笛でした。まずは、音を出すだけでも大変です。でも、音を出すことができれば、笛が一番楽しい楽器になります。

私の専門は三線で、学校の色々な演奏会に三線が出ることができました。参加できるのもよかったです。先輩達の素晴らしい舞台を見られるのもとてもよかったです。



学内演奏会

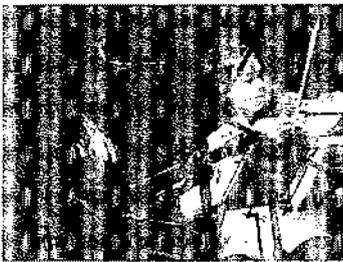
学校以外に三線研究所も行っていました。先生と先輩が使っている言葉はさらに難しかったです。去年の8月に琉球古典芸能コンクールで三線の新人賞をもらいました。うちな一のくとうばもあまりよくわからないので、歌

詞を覚えるのは大変です。そして、正座で座らなければならないので、座り方だけでもたくさん練習は必要でした。

沖縄とハワイは似ているとよく言われていますが、ハワイでの生活のような生活が沖縄でも出来るかなと思いました。ハワイでよくやっていたことはサーフィンです。沖縄はどこからでも海が近いのに、海に行く人はなかなかいないと気付きました。ち

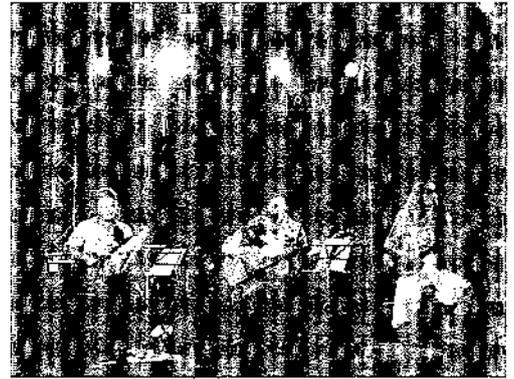


沖縄の美ら海でサーフィン



ギターで余興

よっと時間がかかりましたが、サーフィンをやっている人と出会うことができ、友達になってくれて、沖縄でもサーフィンをすることが出来ました。もう1つの趣味はギターです。沖縄に来る前、ハワイで友達とあちこちでライブをしていました。沖縄でも音楽をしている人が多いので、友人達と一緒に沖縄でも色々なライブのようなイベントでギターも弾きました。

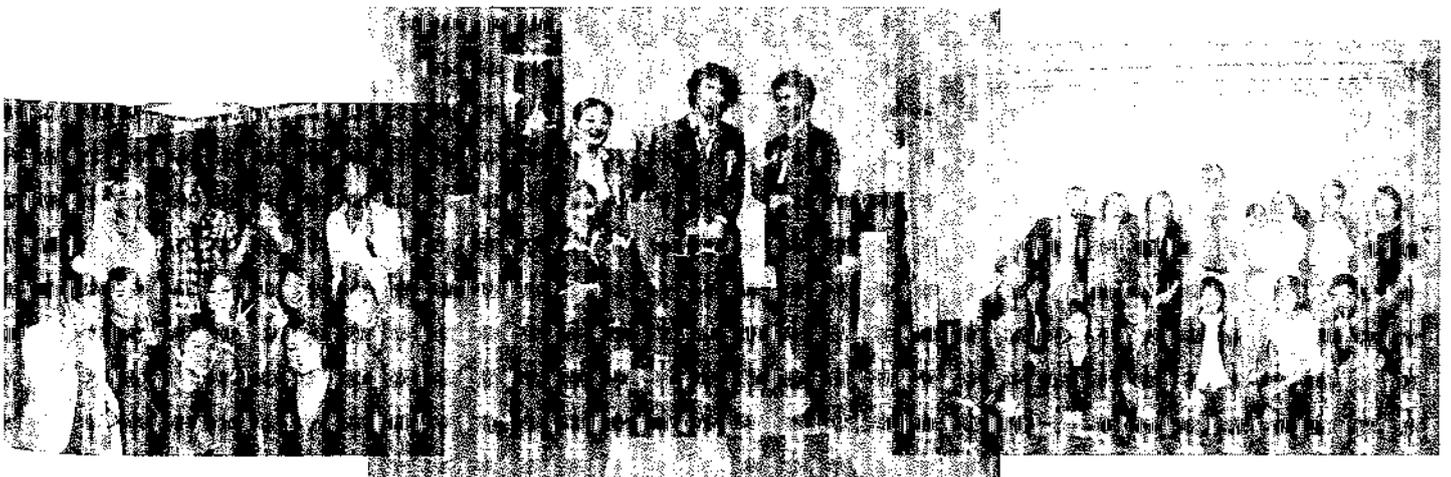


芸大際

もう一つ、よく言われていたのは「ウチナンチューはすごく良い人」。沖縄に来て、そのことには当然気付きましたが、ウチナンチューだけではなく、ただ、沖縄で出会った友人達は、沖縄の人でも、日本本土の人でも、他の留学生でも、とても良い人です。皆のチムグクルを感じられるので沖縄は本当に特別な力が繋がっていると思えるようになりました。

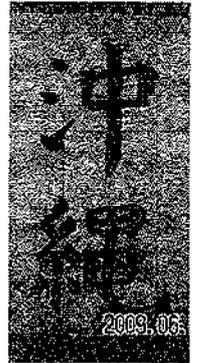
ハワイに帰っても、沖縄と関係ある活動を絶対しようと思っています。そうして、自分の祖父母のように、ハワイの若い世代を感激させられればと思っています。沖縄の皆さんのおかげで、この県費留学はとても素晴らしい体験になりました。

Mahalo nui loa. いっぺーにふえーで一びる!



## 色々な沖縄

新城 ナオミ アンジェリカ(ブラジル連邦共和国)



沖縄という所は私の両親の故郷でありながら、私自身が大好きな所で、いつでも来たい所です。

県費留学生として沖縄に来るのは昔からの夢でした。沖縄を訪れた友人の体験談を聞いた時にいつも羨ましく思っていました。この夢が叶うまで二年間の準備が必要でしたが夢が叶ってとても嬉しいです。留学期間一日一日大切にし、時間を無駄にせず学べることは学びたいと思って来沖しました。

いつもそばにいて、私を支えてくれる家族をはじめ、沖縄県人会ブラジル支部の方々のお蔭様で、今私は地球の裏に、沖縄という素晴らしい所で色々な経験が出来て人生一方成長できたと思います。本当にありがとうございました。



父の影響で、琉球芸能に深く関心を持つようになりました。父が三線を一生懸命弾いている姿を見て、私も沖縄に興味を持ち始めました。

ブラジルで厳しい生活を送りながら、父は愛する故郷のことを忘れずに、日々の仕事を終わらせて、三線を弾くことが父のリラックスタイムでした。父が良く口に出す諺「芸は身を助ける」のとおり、私が子供の頃からやっている琉球舞踊のお陰様で今私はこのウチナーに留学が出来ました。



私が幼稚園の頃、県人会の行事で琉球舞踊と出会い、琉舞に惚れました。私もあの美しい踊りをやりたくて父にお願いしました。父と同じく読谷村出身である師範知花千恵子先生の琉舞道場に連れて行かれました。私が5~6歳の時で妹のえみは2~3歳の頃でした。私達は子供だったので千恵子先生の孫達も同じ年で、最初の頃は遊びに行きたくて道場へ行ってたかもしれない。それでも先生は家族のように優しく私たちを受け入れて下さいました。

千恵子先生の優しくて厳しいご指導のお蔭様で、素晴らしい琉舞を続けてきて今回、本場に留学することが出来ました。心から感謝しています。

時が流れ中学校・高校の時、学校が忙しくなって琉舞にあまり時間を掛ける事が出来なかった時にも、千恵子先生は私を信じてくれて、県人会の一つの行事として毎年行われる琉球舞踊古典コンクールを受けさせてくれました。新人賞をもらった時は13歳の頃でした。

那覇空港に着いて、嬉しくて、自然に笑顔が溢れていました。夢の沖縄に来て、夢でもあった県立芸術大学に入学し、なかなか現実である事を信じる事が出来ませんでした。まだ夢の中って感じでした。

芸大では県費留学生は4人でした。アパートも一緒に「ゆいまーる」という表現が昔から沖縄にあって、お互いに助け合いながらという意味の諺で私達4人も兄弟のように一年間仲良く過ごしました。



大学では琉球芸能専攻・琉球舞踊組踊コースでしたが琉球舞踊以外にも沖縄の芸術を色々学ぶことが出来てとても良かったと思います。琉球舞踊、組踊、扮装法、三線、箏曲、笛、胡弓、太鼓、日本語の授業を受けました。聴講では沖縄歴史、詞章研究、琉球芸術史の授業も受けました。

芸大の授業はほとんど初めての経験でしたので、楽器などに慣れるまでに時間が掛かって大変でしたがやって良かったです。

大学の演奏会は学内が3回あって、定期公演が1回と学生同士で余興も色々やりました。

沖縄に来てひとつびっくりした事は公演に向けての稽古です。出演者みんな集まる時間がなかなか合わなくて、ほとんど昼休みを使用して稽古しました。最初は私もついて行けるかどうかを心配しました。沖縄の厳しい舞台に立つのは毎回緊張しました。

大学の演奏会でも色々やらせてもらいました。7月に最初の学内では舞踊二台に出させて頂きました。10月の定期公演では器楽合奏で太鼓をやらせて頂きました。そして1月の学内にはハワイの留学生具さんの独唱の伴奏で箏を弾かせていただき、器楽合奏では太鼓をうちました。

11月の学内では1年生は裏方の仕事をもらいました。所作代の準備と片付け、楽屋の手伝い、ケータリングと後片付け、掃除もやりました。先生方や先輩方のお陰で全て参加出来て大変勉強になりました。

入学と同時に安座間本流大北満之会・新垣満子琉舞研究所、読谷へ通い始めました。新垣先生始め、道場の皆様が私を温かく仲間に入れてくれてとても嬉しいです。感謝の気持ちでいっ

ばいです。

新垣先生は稽古が終わって、私が首里に帰るのを心配してくれて、先生の家泊まらせてくださいました。稽古が週4回だったので嘉手納のおぼさんの家にも泊まらせてもらって、どっちもあんまり大変じゃないように分けて泊まっていました。翌朝大学の授業もありましたので、アパートに戻らず直接学校へ行ったこともあります。帰りはバスや那覇で働く嘉手納のおじさんや友達に車に乗せてもらいました。大変助かりました。ありがとうございました。

週4回、コンクールが近づくとコンクール舞台稽古も日曜日にあつたら週5回も読谷へ行きました。色んな公民館を借りて稽古しましたので稽古へ行くのも大変でした。



6月には沖縄タイムス社主催「伝統芸能選考会」沖縄古典音楽箏曲の部に挑戦しました。芸大の先生である上地尚子先生のご指導を受けてコンクールに向かって練習しました。箏に合わせて歌うのがとても難しかったので最後の最後まで怖くて不安の気持ちでいっぱいでした。

不思議なことで私の受験番号、21番が3年前に、妹が同じく箏曲部の新人賞を受けた時と同じ番号でした。すごい！！縁を感じました。

8月は琉球新報社の第44回琉球新報琉球古典芸能コンクールに琉球舞踊新人部門に挑戦しました。先生方、先輩方そして道場の仲間達が支えてくれたお陰様で無事コンクールが終わりました。

箏曲も舞踊も初めての沖縄本場でのコンクール経験だったので、何をしたら良いのかもわからず、最後までとても緊張して、不安でいっぱいでした。大変でしたが本場でのコンクールも味わえて本当によかったです。重要な経験でした。周りの皆さんが応援したお陰様で箏曲も舞踊も無事終わることが出来ました。



母方の親戚も中部です。北谷町の真栄城のおぼさん達と宜野湾市の仲松さん達。いつも私のこ

と心配してくれて、電話もよく頂きます。いつもありがとうございます！！色々お世話になりました。



沖縄の伝統芸術でもある陶芸も体験出来て良かったです。陶芸はアルゼンチンの県費留学生西郷由香さんの専攻で、由香さんは先生の許可をもらい、私たち留学生に陶芸体験をやらせてくれました。とても楽しかったです。

今年の2月の後半に芸大の留学生10人が作ったそれぞれの作品を栄町にある、前島アートセンターで展示会をやりました。それぞれの国の料理もあって楽しかったです。

また学校のこと、美術との交流で、夏休み中にわうけ先生、スイスの留学生ダニエルさんとハンガリーの留学生テオドラさんのご指導で紙漉きも七宝焼きも体験できました。全部印象に残って楽しかったです。



この度の留学の目的であった沖縄の文化や芸術を学ぶ事は達成したと思います。心から感謝申し上げます。

ここで作った絆をずっと大切に守りたいと思います。

この留学を援助して下さった沖縄県、財団の皆様、各大学の皆様、家族、友人、夢の中のようで幸せいっぱい的一年間をありがとうございました。この夢から目覚める時が来ましたがまた近いうちに、夢の世界、沖縄へ帰ってきたいです。



数え切れない多くの人々と出会い、人を温かく包み込むうちなんちゅの優しさに惚れ、いつもそばで支えてくれる家族や友人のお陰で改めてこの島で感謝の意味の大切さに気づかせてもら

いました。人間は「ありがとう」という魔法の言葉の意味をわかるようになると幸せになる事を感心しました。

本当に「感謝」の意味に気づかされたうちなへにふえーデービル!!!

## 大実現な時期

諸見里 イーゴル 真 (ブラジル連邦共和国)

沖縄、両親の生まれた所、お爺さんの育った場所、子供のときに一年間沖縄に住んでいましたがまたもう一年間住むことになるとは思わなかった。しかも留学生として、沖縄の美術を学びに来られるとは、ものすごいラッキーかも知れない。



思った以上に沖縄の日常生活は自分が住んでいたサンパウロとまったく反対でした。町の大きさ、人口、交通機関、色々な違うポイントがあります。それだけでなく一人暮らし、留学生生活と奨学金、ブラジルでは反対の状態で暮らしていました。もちろんものすごく良い経験になりました。



芸大と自分の卒業した大学は全然違うと感じました。教育からインフラストラクチャーまで、生徒の日常生活はまったく差があります。週末か休みに生徒と先生達は普通に作業しに来るとか、色々専門的で厳しく分かれていたりとか、上等な機器が集められていたりとかびっくりしました。

この芸大留学の間本当にもっとも作品の製作力を高めた時期でした。大学時代にも色々な技術を学んでいました。あまりにも多くの授業を受けていたので、集中しにくいことがありました。この留学で自分が習ってきた物をもっと深く作業する事が出来、

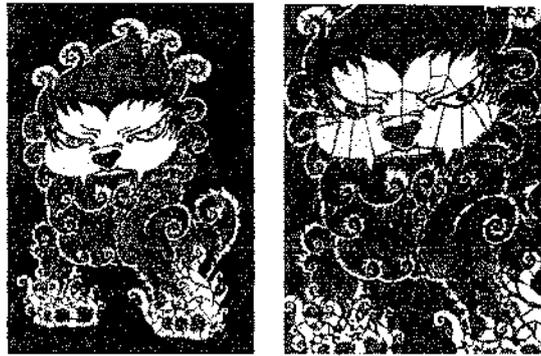
思った以上に良い作品の製作が出来ました。



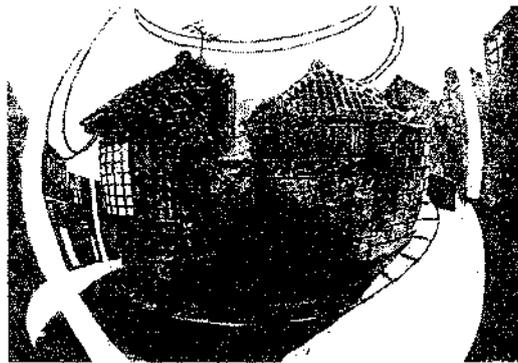
もちろんこの時期にはものすごい豊かな新しい知識が増えました。聞いたことがあっただけの日本美術史と沖縄美学を味わって、伝統的な技術を学び、ブラジル人に特別な知識を与えてもらい、すごく嬉しいです。アニメーション、紙すき、型染、紅型、日本美術史、沖縄工芸史、木版画、自分の作品の様式、新たな技術とそして新しい友達とのつながり、この留学がこんなに豊かな経験を与えるなんて想像していませんでした。



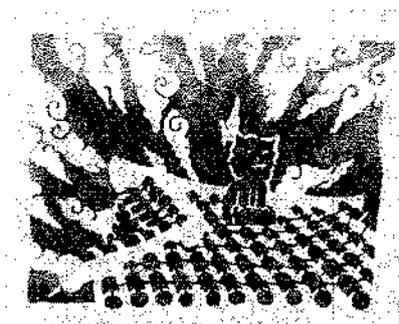
沖縄に来る前、子供のころからずっと紅型の絵に興味がありましたが、どうやって紅型が作られるのかはさっぱり想像できませんでした。芸大で型染めの授業でやっと紅型の技術を紹介されました。そして昔の紅型への興味はもちろん紅型をもっと深く学びたい気分になりました。そして横井祐輔さんと言う紅型作者に指導を受けました。伝統的な技術を紹介され、自分の自宅で作業し、ブラジルでも作り続けるために頑張ります。



日系人だからブラジルではよく”日本人”と呼ばれています。子供のときにもよく日本と沖縄の文化の回りで育ちましたが、もちろん自分はブラジル人の意識があると感じます。でも沖縄との縁はものすごい強いことは忘れない。この留学の後も、もちろんその縁はすごく増えて大きくなりました。親戚と友達とのつながりだけじゃなく、その沖縄ソウル、アイデンティティと土地にも。留学の前は自分は”ブラジル人だけだ”と思っていたのですが今は”ブラジル人ウチナンチュウでもいいさ”と考え直しています！



最初に沖縄に住んでいる親戚たち、友人達、Kerstin, 横井祐輔さん、芸大の先生方と事務所、県民の方々そして沖縄県と財団、誠にありがとうございました。



沖縄お世話になりました！

Igor Shin Moromisato

Okinawa 2010

## 「絆」

比嘉 屋宜 パトリシア 春美 (ペルー共和国)

ペルーからまいりました、県費留学生の比嘉屋宜パトリシア春美と申します。今回は沖縄で一年間の生活、見学と沖縄で学んだことを話したいとおもいます。私の家族の生まれ育った所は沖縄、それで沖縄についてもっと深く知りたいと思いました。私は沖縄の子供ではなくてうちなんちゅの子供で誇りに思っています。



親戚から沖縄県人会での奨学金のことを聞きました。参加するかどうかまよいました。両親とそうしたら「この奨学金で沖縄に住んでいる親戚に会うこともでき、沖縄をやるために良い機会だと思う」と言われました。このきっかけで、まよわずに名桜大学を選択し、受験しました。合格の結果が出たとき、沖縄に行くのをすごく楽しみにしていました。



沖縄に来る前、うちなんちゅは温かくて明るい人々と聞いていました。那覇空港で親戚が嬉しくて、家族のように迎えに来てくれましたので、感動しました。やはり、いちやりばちょうでーの意味が良く分かりました。そして、沖縄に着いて一番印象に残ったことは美しくすばらしい青空です。その上、びっくりしたことは蒸し暑い夏でした。



大学が始まったとき、私は日本語、沖縄の言語、日本事情を取り、エイサーサークルに入りました。前からエイサーが大好きでした。体全体が動く強い音とリズムに感動し、これからペルーで琉球國祭り太鼓が発表したら是非行くことにします。沖縄で名桜エイサーに参加していました。踊っているのはもっと伝統的なエイサーです。例えば、ちゅんじゅん、くだか、てんようーを踊っています。又、さまざまな発表に出たことがあります。



ペルーで曾祖父の三線をひいていてバンドにも属していました。三線は沖縄のように暖かい音の響を感じます。沖縄で三線サークルに参加したかったのですが、会員が少なくて開くこと

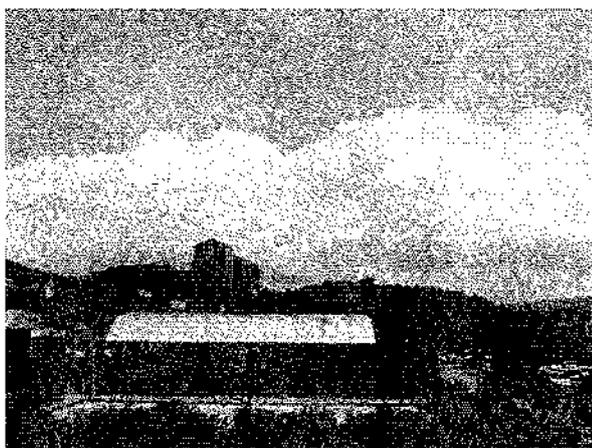
ができませんでしたので、残念だと思いました。でも後期が始まったとき新しい留学生と一緒に練習をしました。

生け花サークルにも参加していました、ペルーでは父がいつも生け花をしています。ペルーにいたとき生け花にあまり興味がありませんでした。でも沖縄で始めたとき、父がやっている理由が分かりました。それは生け花をしたら弛緩し自然をもっと親しむことができるからです。

沖縄にいる間さまざまな所に行きました。例えば、沖縄の一番北にある辺戸岬、オリオンビール工場、名護展望台、美ら海水族館、琉球村、首里城、普天間神社や那覇祭りでは有名な綱引きをやりました。又、沖縄市に住んでいる親戚の所に何度も行きました。そこへ訪れたのは、曾祖母の葬式が行われたからです。葬式に参加したとき沖縄の文化を見、親戚を手伝ってあげました。そのためにペルーに住んでいる家族と沖縄に住んでいる親戚がもっと連絡を取って、強い関係を作りました。ペルーの親戚が言ったとおり私はこの奨学金で沖縄とペルーの架け橋みたいになつています。親戚と友人のおかげで沖縄の歴史や文化のことがもっと分かりました。



国へ戻ったら家族と友人に沖縄で学んだことを是非教えたいです。沖縄に来たことを心から感謝しています。この経験は一度も忘れられないで心の奥にあります。「大切な物がきっとここにあるはずさ」という文が「しまんちゅぬ宝」の曲にあります。私にとってその大切なこと、大切な思い出と私の人生に永遠に残るものは沖縄との絆です。



沖縄、ありがとう！私の人生を変えてくれて。。。

島袋 桑江 フィオレラ アンジェリー(ペルー共和国)

一年間はあっという間に経ちました。。。この文章を書いているとたくさんの思い出が頭に浮かんで来て、涙が出てきます。ああああ！！絶対に人生の中で素晴らしい年だったと思います。

実は、このような経験をできるとは思っていませんでした。

私は日系人4世としてペルーで日本、特に沖縄の環境で育って、仏壇にお線香をあげること、学校でエイサーを踊ること、ビギンの歌を聞くことなど、日常生活の一部でした。

しかし、参加していたさまざまな習慣の由来や目的などがはっきり分かりませんでした。また、人々から沖縄のことをたくさん聞くのでいつも好奇心をもって、個人的に沖縄を知りたいと思っていました。

県費留学生として、私の願望を実現しました。非常に嬉しかったです。

沖縄に着いたばかりの時、海を見ると以前写真で見たのと同じように美しく、色々な所にシーサーがいました。また、何人かの沖縄人の顔を見るとペルーの知り合いの人と見間違えうほど似ていて、大変驚き、感動しました。

しかし一方で、日本語が下手であり分らなかったため、暗い気持ちになりました。それから、日本語の授業のクラスメイトはみんなペラペラだったので、さらに落ち込みました。

ニュースのクラスで先生が「愛のプレゼントをあげる」と言ったので、私はワクワクしました。しかし、そのプレゼントを受け取ると、それは宿題の新聞記事でした。いっぱい知らない漢字があって死ぬほどびっくりしました。実際は死にませんでしたが、それを終わらせるのに4時間ぐらいかかりました。

最初の月は難しかったけど、先生方や親戚、友達、チューターなどがいつも手伝ってくれて、安心しました。



に自信を与えてくれ、気持ちにさせてくれました。

前期が終わるときにプロジェクトワークを作って発表しました。

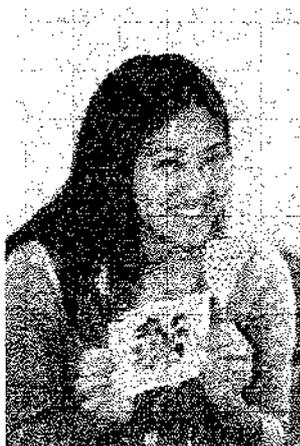
私のグループが選んだテーマは「ストーカー」でした。そのため事実に基づいたビデオを作りました。全員一致の賛成で、

私がストーカーの役をすることになりました。セリフを全部覚えないういけなかったので大変でしたが、一所懸命やって、いいビデオが出来て良かったです。この経験は私さらに日本語を勉強したいという



日本語の授業だけでなく、沖縄の文化の授業も受けました。とても面白くてたくさん学ぶことが出来ました。

以前から疑問に思っていた文化や習慣の由来、目的を知ることができて満足でした。それから、ムーチーや紅型、ぶくぶく茶、シーサー作りなど実際に自分で体験できて、すばらしい経験でした。



慰霊の日にテレビや新聞などで戦争のことが取り上げられていて、以前は戦争について少ししか知らなかったけれど、この日をきっかけにたくさんのことを学び、また沖縄日系人として沖縄の歴史を知る必要があると思ったので、もっと意識するようになりました。

そのほか、さまざまな所へ行きました。たとえば、中城城、首里城、辺戸岬、渡嘉敷島、古宇利島、今帰仁城、浦添ようどれなどです。これらの場所で沖縄を詳しく理解しました。

そして、沖縄のイベントに参加して、一番面白かったのは那覇綱引きでした。人が多く、小さい子どもからお年寄りまで参加していて、驚きました。



親戚とシーミーをやって、伝統的な料理やお供え物などの意味を知ることができるいい機会でした。



琉大にはサークルがたくさんあったのでびっくりして、暇な時に三線やアイスホッケーや沖縄の踊り、テニスなどをやってみました。

8月にスペイン語のクラスのサポーターとして奥の山荘へ行きました。

琉大の生徒達とペルー料理を作って、沖縄とペルーについて発表をして、新しい事を学んで、いい文化の交換をすることが出来ました。

この一年は最高でした。自分のルーツをたくさん学んで、今までに気付かなかった事に気付きました。

さらに、留学生として、さまざまな国の人々に出会い、文化や考え方の違いを学んで、自分の視野を広げることができました。初めて家族から遠く離れて違う環境で一人で暮らし、全てのことを自分自身で決定することは、これからの人生においてすごく役に立つと思います。

沖縄で学んだことは、日本語、文化、習慣などたくさんあります。

今までの自分とは違う自分を見つけることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

沖縄県庁や財団、ペルー沖縄県人会のみなさま、この機会を与えて下さり感謝しています。

先生は辛抱強く私にたくさんの事を教えて下さいました。

親戚は私をあたたく迎えてくれ、いつも私の事を守り、力になってくれました。

友達には相談に乗ってくれたり、いつもそばにいて一緒に楽しい時間を過ごしてくれました。

みなさん、そして沖縄、どうもありがとうございました！



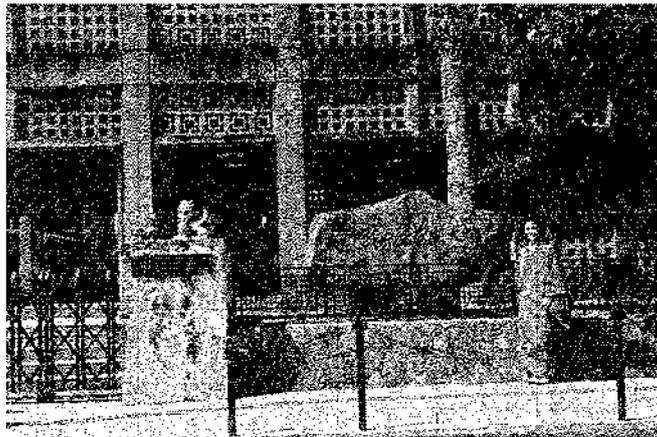
## 一生忘れない島

### 西郷エバンヘリナ（アルゼンチン共和国）

私は日系三世なのでずっと前から日本文化、特に沖縄の伝統文化に大変興味を持っていてアルゼンチンでロサリオ日本人会で沖縄文化普及に協力して来ました。だから何年か前から沖縄に一生に一度は行かなければならないと思って来ました。

アルゼンチンの沖縄県人会からこの県費留学生プログラムが紹介された時に応募条件について、最後の年なのでこの機会に参加しなければならない、県費留学生として沖縄に来るラストチャンスだと思いました。

今回、日本に来るのが初めてで、沖縄に来るのも、もちろん初めてでした。私は家族思いな人ですから、アルゼンチンを離れるのは大変辛い事でしたので、すごくホームシックにかかりました。更に、一人暮らしが初めての事、海外での生活がもっと大変でした。しかし、県立芸術大学の県費留学生と友達になってすぐ仲がよくなりました。



私はアルゼンチンでロサリオ国立大学の美術学部版画専攻を卒業しました。しかし、上記に書いたとおりに、以前より沖縄文化に深い興味を持っていて、沖縄に行く機会があったらヤチムンを勉強したいと思いました。大学で陶芸を勉強したことがあるけど、ロクロでの制作は初めての体験でした。最初は何も出来なかったけど少しずつ体で覚えながらいっぱい湯呑みが出来上がりました。



そして、マカイの授業で二年生達と初めての窯炊きをしました。マカイに釉薬をかけて面白い時間を過ごしました。先生方はとても優しくしてくれて言葉が分からない時にいつも親切に教えてくれたので授業を楽しくやっていました。

急須、土瓶の口やふたやハンドルなどの部分を作って取り付ける授業でした。とても難しかったと思うけど毎日意欲的に練習しました。

つなぎの技法による大物をケロクロで制作する、荒焼（あらやち）の授業でした。出来上がった作品を穴釜で四日間で焼いて完成させました。すごく疲れましたが、勉強しながらいい経験になったと思います。



夏休み期間で集中講義に参加しました。自由科目と写真の授業を受けて、楽

しい時間を過ごしました。集中講義だけでなく紙漉きと七宝焼きもやっていていい経験になりました。



11月に芸大祭が行われました。二年生と陶器市で湯呑みコーヒセットとマカイ豚汁セットを販売して大成功でした。また、芸大のエイサーグループ、6月から一生懸命練習してきて、発表は、とてもよかったと思います。

そして、芸大以外でも、いろいろな活動をしてきました。アルゼンチンで10年前からエイサーのグループ「琉心ロサリオ太鼓」のメンバーとして活動し、指導もしてきました。今まで、那覇太鼓でエイサーの練習をし、和太鼓講座にも通っていました。那覇祭りが行われた時に、国際通りで踊り、お客さんもたくさんいて、すごく感動しました。今までは、アルゼンチンでビデオを見ながらエイサーの練習をしてきました。沖縄に来てからは、先生から直接教えて頂き、ウチナーのチムグクルも学びました。帰国後、ここで学んだ事を「琉心ロサリオ太鼓」に伝えたいと思います。



嶺井医院長は、親戚ではないけど、私にとって沖縄の父です。嶺井医院長を身近に感じ、心から感謝しています。この一年間、お世話になり、ありがとうございました。

お正月には、大分の親戚に会いに行ってきました。初めて父方の祖父母の故郷に行って父のルーツを探ることも出来ました。



帰国してからも、沖縄県人会へ参加し、アルゼンチンと沖縄県の架け橋として一年間の沖縄での経験やヤチムン、沖縄独自の文化を日系人達に伝えたいと思います。

また、島人ぬ宝を失わないよう、ウチナーンチュの子孫として沖縄の文化、この研修に応募する事の大切さを次世代に伝え続けなければならないと思います。



この一年間でたくさん学ぶことができ、沖縄県、財団、芸大関係者、親戚、友達に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

## 沖縄最高！！！！！！

仲里 ソランジェ (アルゼンチン共和国)



沖縄に来る前、私は「大人の世界」を過ごしていました。なぜかと言うと、私はアルゼンチンで5年前、大学を卒業し体育教師として学校やスポーツセンター、ジムに勤めていたからでした。また、一人暮らしをしながら、毎月家賃や電気代などの金額が足りるように、節約していたのです。しかし、ある日こういうことがありました。

アルゼンチン、ブエノスアイレス、2008年12月の始めの頃、電話が掛かって来ました。アルゼンチンの県人会からでした。「仲里さん、沖縄に留学するのにあともう一つの席が空いたので、まだ行きたいですか」と聞かれ、びっくりしました。もちろん、私は躊躇わずに「行きます！」と答えました。

そして、あれから私の人生は変化し始めました。

### 日本語ちゃんぶるー！

最初、沖縄に来た時とても不安を感じました。第一の理由は、日本語が下手だからでした。それは、うちな一口、日本語とスペイン語の「ちゃんぶる一語」を話して育てられたので、正しい日本語を学べなかったからです。

### 大学

大学で作文や漢字、ニュース、文法と読解の授業を取って、先生達のお陰で私の日本語は進歩しました！そして、沖縄事情でたくさん見学をしたり、様々な文化体験をしたりしました。



## 沖縄戦

私は沖縄戦について、あまり詳しいことは知りませんでした。授業で戦争の原因や結果について勉強したり、沖縄市にある戦後文化資料展示室ヒストリーや、アプチラガマ、チビチリガマ、ひめゆりの塔、平和祈念公園を見学しました。

また、「慰霊の日」に向けての平和学習で、私は「集団死」について調べて発表しました。そのことをきっかけに、戦争を体験したうちなーんちゅは「どれほど苦労したのだろう」と改めて考えさせられました。



そして、琉球大学日本語弁論大会にも参加しました！

琉大の多くの留学生が自分の経験したことや、考えかたを日本語で発表し、様々な意見を聞いて、自分になかった考えを知ることができました。また、色々なテーマについて考えさせられた点もありました。



私は私と沖縄の繋がりについてスピーチしました。  
思ったより非常に緊張しました！！  
お疲れ様でした！！！！

## ぶくぶく茶に夢中

私は十月からぶくぶく茶に夢中になって、田中先生のお茶の教室に通い始め

ました。また、先生から賞状をもらい、そしてぶくぶく茶の免許をとったので、それをとおして、アルゼンチンと沖縄の交流がもっと深められるように貢献したいと思います。



### 100%うちなーんちゅですよ!!!

沖縄に来てから初めて日本人に会った時にはいつも、「だれが日本人ですか？お母さんかお父さん？」と聞かれて、私は「両方うちなーんちゅですよ」と答えていました。

私のことを知らない人々は、私は南米人、スペイン人かアラブ人だと思われていますので、時々私の外見について悩みます。しかし、ある日、他の留学生と栄町の市場を歩いていた途端、沖縄のおばあさんが私に声をかけました。「あんたはうちなーんちゅでしょ？」、と言って私はとても嬉しかったのです!!!



### 「おきなわん Blood！」(親戚)

私は今年二十一年振りに沖縄に来ました。長い間久し振りに親戚に会ったり、初めていとこ達にも会いました。

そして、この一年の留学期間は勉強以外に、家族関係をもっと結びつけるようないい機会だと思いました。

仲本のおじさんとおばさん、また母の友人シモジさんとひとみさん、大変お世話になりましたので心から感謝しています！！ ありがとうございます！！！！



最後に。。。。



沖縄県民、沖縄県庁、財団、琉大の先生方、親戚、沖縄で出会った友達に～一年間お世話になりましたので～いっぺーにふえーで一びる！！！！！！

そして2009・2010の県費留学生に～また、いつか、どこかで、会おうね！！

## 沖縄での日々

王 慧群(中華人民共和国)

わたしは山に恵まれる村に生まれ育ちましたが、幼い頃からずっと海に憧れています。静かできれいな海はよく夢で見ます。何度も海を探す旅に出ましたが、がっかりしました。それは夢の海とは違います。

沖縄県と福建省は昔から深く繋がっていて、今でも姉妹関係を結んでいます。そのおかげで、わたしは県費留学生として沖縄に留学できるようになったのです。多少の揺れで、飛行機酔いから目が覚めました。窓からざっと見ると、広くて青い海でした。その輝き、神秘そして美しい海に一目惚れしました。その海に出会って、わたしの留學生活の第一ページが開きました。



一目惚れの海

ここに、琉球大学での留學生活を勉学、見学と体験、県民との交流と三つに分けてまとめていきたいと思います。

### 一、 勉学方面

#### ★普段の勉強★

日本語を中心に講義を受けました。前学期は日本語ⅢA、日本語ⅢB、日本語ⅢC、日本語Ⅴ、沖縄事情Ⅰ、日本事情Ⅰといった六つのコースを受けました。後期は続いて日本語ⅣA、日本語ⅣB、日本語ⅣC、日本語Ⅵ、沖縄事情Ⅱ、日本事情Ⅱといった六つのコースを受けました。

ニュースの授業や日本事情の授業を通して、日本社会の現状と深層文化がわかるようになってきました。沖縄事情の授業を通して、沖縄の歴史や独特の文化を知ることになりました。さらに、毎回のクイズやテスト、発表などを通して、今まで「化石」になってしまった間違いを直されたことができました。また、日本語の聞く力、書く力、会話力などが前より上達したという気がしました。しかし、もっと大幅に高めたいと思います。

## \*劇\*

日本語のプロジェクトとして、劇をすることになりました。日本の昔話「鶴の恩返し」で、クラスメートたちはそれぞれの役を担当して出演しました。先生方のご指導を始め、みんな協力しあい、アイデアも湧き上がりました。それから、衣装も着換えて、本番の気持ちで一生懸命練習しました。5月の上旬から6月の下旬まで、約1か月半の練習の成果が上がって、劇の発表は大成功でした。日本語のプロジェクトの達成感のほか、クラスメートはとても仲良くなれたので、忘れられない思い出になりました。

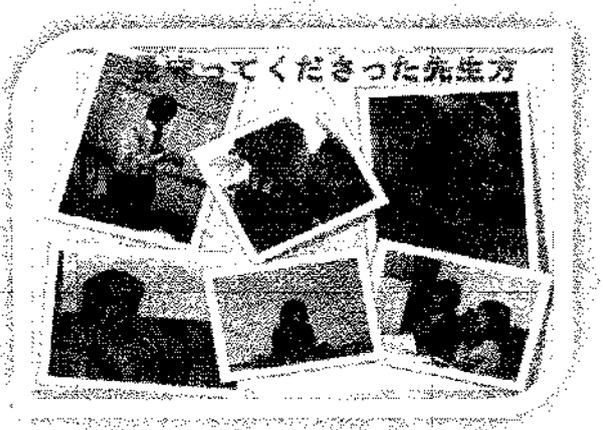


お疲れ様～～！

## \*スピーチ大会、日本語弁論大会\*

毎年1月末、琉球大学の留学生による日本語スピーチ大会が行われます。このスピーチ大会のために、たくさんの時間をかけて、原稿の直しや発音の練習など、とても大変でした。

さらに、沖縄県外国人による日本語弁論大会にも参加しました。発音だけではなく、手振り身振りや感情を入れるのもいろいろ工夫しました。散々練習して、2月27日日本語弁論大会の本番で達成感と充実感を味わうことができました。ずっと支えてくださった先生方に感謝の気持ちで胸がいっぱいです。



この1年間本当にありがとうございました

## 二、見学と体験

### ＊中城城跡、首里城、浦添城跡、中村家＊

沖縄事情の授業で中城城跡、首里城、浦添城跡、中村家などを見学しました。沖縄の歴史にも触れ、昔、琉球王国と中国は深く繋がっていたと再び感じました。

特に三山時代の歴史に興味津々になり、自分でそれについて調べました。護佐丸、阿麻和利などの歴史人物の物語も楽しく読みました。

また、百年以上の歴史がある富農の家—中村家はヒンプンから豚小屋まで、地元の福建と似ているところがたくさんあると気がしました。



首里城——琉球王国の幾多の興亡を伝える歴史の証人

### ＊シーサー、紅型、ムーチャー、塩、エイサー、ブクブク茶、石川泡盛酒造＊

シーサー作り、紅型作り、ムーチャー作り、塩作り、エイサー体験、ブクブク茶体験、石川泡盛酒造の見学などを通して、沖縄の伝統文化や芸能を楽しむことができ、沖縄の人々は自分の文化に誇りを持ち、大切にしている気持ちもわかりました。

例えばブクブク茶です。日本の「茶道」と違って、ブクブク茶は文字通りぶくぶくしています。大きな器には、お茶が入っており、大きな大きな茶筌で、シャカ・シャカはじめると、みるみるうちに泡立ち、驚きでした。



沖縄の郷土茶

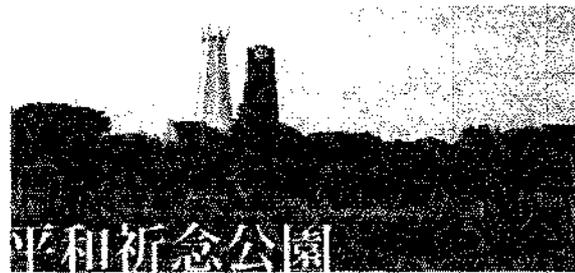
### ＊沖縄テレビ (OTV)、オリオンビール工場、警察本部、海水淡水化センター＊

沖縄テレビ (OTV)、オリオンビール工場、警察本部、議会場、海水淡水化センターの見学を通して、今の沖縄の実情や県民の生活に関わっていることも見

せていただき、とてもいい体験でした。

#### \*アブチラガマと平和祈念資料館\*

六月二十三日の慰霊の日に向けて、授業の一環として約1ヶ月かけて平和学習をすることになりました。沖縄戦について学び始めてから、来たばかりの時のように、私はそんなに開放感にひたって過ごすことができなくなりました。平和学習では、いろいろなことを調べて発表したり、クラスメートの発表を聞いたりしました。また実際にアブチラガマに入ったり、平和祈念資料館を見学したりして、沖縄がどんなに悲惨なものだったか、沖縄の人が、どのような状況におかれていたのかを感じることができました。戦争はどれだけ悲惨なことか、平和はどれだけ大切なことか、それらを改めて痛感しました。



### 三、 県民との交流

#### \*長城会\*

先輩の紹介で、わたしは「長城会」という中国に大変興味を持っている沖縄の方々からなっている団体との交流会に参加しました。「長城会」は月に一回中国の留学生を招いて交流していますが、今まで183回で、もう15年経ちました。お互いに中国のことと、沖縄や日本のことを話し合い、楽しい雰囲気の中で相互理解を進めています。



「長城会」の皆様、この一年間大変お世話になりました。

### ＊「おはよう」中国語教室＊

9月から、ボランティアとして「おはよう」という中国語教室をサポートしていました。そのクラスがあるから毎週の土曜日を楽しみにしています。教室に来ている方々は、ほとんどが年輩の方で、平均年齢は五十から六十歳代だと



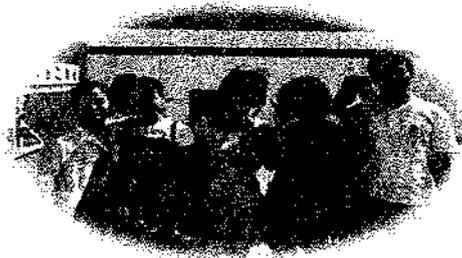
思います。

### 「おはよう」中国語のみなさん

でも若者に負けずに熱心に中国語を勉強しています。みんなの一生懸命に勉強する姿をみて、わたしは感慨深い気持ちになり、この学生達のためならばできることは何でもしてあげたいという気持ちになります。もっと中国のことを紹介したい、もっと理解してもらいたい気持ちが自然に湧き出てきます。

### ＊久米島ホームステイ＊

また、久米島のホームステイを体験しました。わたしにとって、初めてのホームステイです。日本の家庭に泊まって、一緒に食事をしたり、話をしたりして、ファミリー生活に触れることができ、とてもいい経験でした。ホームステイのおとうさんはわたしたちをあちこちにつれて、久米島をめぐるながら紹介してくれました。ホームステイのおかあさんは船旅で疲れたわたしたちに柔らかいマフラーを用意したり、朝早く懐かしい中国の饅頭を作ったりしてくれました。そして、久米島中学校で中学生たちと交流しあい、楽しい時間を過ごしました。短い3日間でしたが、忘れられない思い出です。久米島の人々のやさしさは心のぬくもりとして、今でもわたしを包んでくれています。



### ホームステイの家族

「人生は箱入りのチョコレートみたいなものよ。どんなものに当たるかわからない」とフォレスト・ガンプのおかあさんが言いました。

私は生まれ育ったふるさとには山に恵まれる小さな村なのだが、学校が終わると仲間と集まって、毎日暗くなるまで山でゲームしたり泥だらけになって遊び回ったものである。沖縄の美ら海に出会うことが夢にだに見ませんでした。

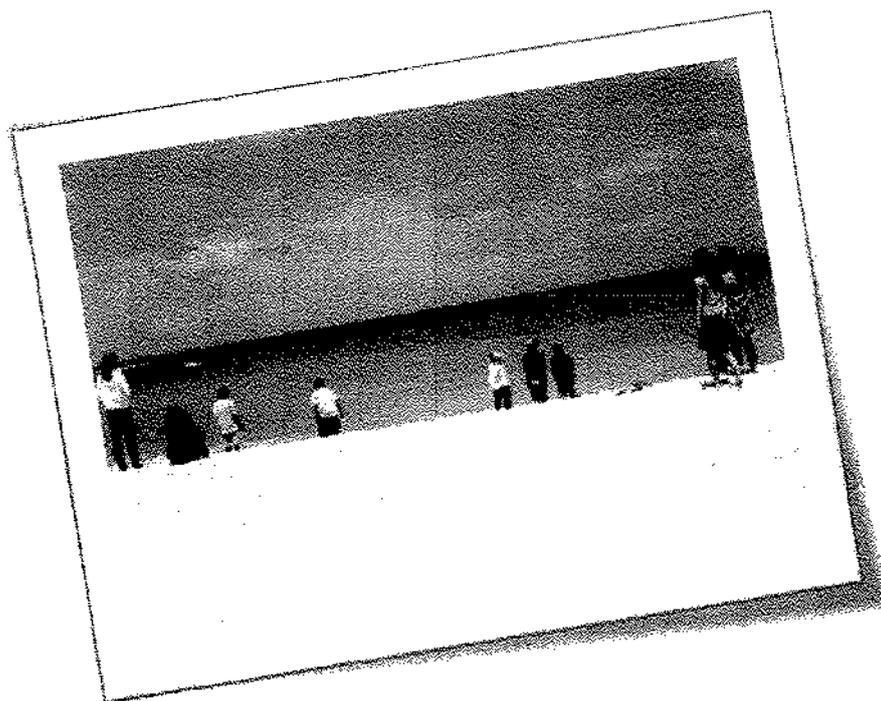
でも、そのわたしにチャンスが訪れ、沖縄にきて素敵な海と人々に出会いました。何度も道に迷ったことがあります。親切に道を教えてくれた方々が数多くいます。寮まで送ってくれた方もいるし、行き先のスーパーまで送ってくれた方もいました。また中にはバス賃を払ってくれた方もいます。このように沖縄の人の人情味にも触れることができ、温かな気持ちになっていました。

そろそろ私の留学生活は終わります。熱心に指導して下さった先生方々のことや、優しくして下さった日本人の方々、この一年間しみじみ感じたこと、学んだことをぜひ国にいる友達や私の生徒達に伝えたいと思います。

最後、留学先は沖縄で本当によかったと思っています。

ありがとう～沖縄～

さようなら～沖縄～



## かけがえのないニューデー

盧 惠文 (台湾)

はじめ

大学で日本語能力を養成しながら、日本事情を学んで日本の一般的常識を身につけることができた。大学院にも進学し、国際交流および国際事務分野に興味を引かれるゆえに、院生として文化、スポーツ指導、文化及び芸術関係など、様々なボランティア体験をしてきた。卒業後、大学の助手として勤めて順調な日々を過ごしていた。しかし、気持ち的に何か足りず、不満だと思いながら、慣れてきた日常生活には、何か普通じゃない物事が訪れたら、これまでの人生が一気が変わるかもしれないと期待していた。

偶々、台湾の教育部・国際文教処の公式サイトに載った沖縄県費留学生応募というお知らせを見た。その後、県費経験者の先輩から話を聞いたりしていたので、沖縄県費奨学金生を申し込み、やっと試験を合格して沖縄に交換留学するようになった。厳しい日本語コースと先生方、真剣勝負の部活、日本文化及び沖縄事情満喫の日々を過ごせ、毎日は、「かけがえのないニューデー」である。

到着したばかりの緊張感は記憶に新しい出来事だが、あっという間に「さよなら」を言う時期になってしまい、沖縄での一年は過ぎ去った。

ここに、沖縄での交換留学生生活を日本語の勉学、歴史文化の学習、学内外の活動、交流体験とその実績について、四つに分けて一年間の留学生生活をまとめて述べたいと思う。

### 一、厳粛な日本語コース

前期は、日本語力の上達を目指し、日本語コースを中心に講義を受け、後期は日本語コースを続けながら、一方を進んで日本語文学を中心に講義を受けていた。

留学に来る前に、大学また大学院では日本語を専攻していたし、さらに、それを勉強し始めてから、今年で10年目になるが、就職後、自分の語学力、能力、知識力の不足を痛感し、リセットして実力を向上させようと思い留学することにした。日本語コースを通して、読解、聴解はもちろん、文法力が必要な書くことまた口で述べる能力を大幅に高めてきたと思う。漢字圏から来た私にとって、漢字をより一層しっかり書けるようになり、似た言葉と擬声・擬態語及び熟語もうまく使い分けられるようになっている。グループ討論や学生の間でのコミュニケーションのやり方で口語力も前より上達した。

大学院で専攻したことがある近現代文学について、非常に興味を持っているから、聴講生として日本文学特講Ⅰを聴講した。後期、指導教官及び履修科目担当の新城郁夫先生に

よる許可をいただき、法文学部の講義を受講するようになり、日本文学特講 II を修了した。植民地主義とセクシュアリティとの関連を、日本近現代文学および映画のなかで考察していけるようになった。特に、沖縄という場の問題、ゲイ・レズビアンに関わる問題、また人種・民族的マイノリティの問題等を踏まえてそれぞれ重点的に考察していた。また、日本文学の研究は、西洋の理論を理解するのは大変重要なポイントだと新城先生がおっしゃった。フーコーの理論をはじめ、ジェンダーの理論、オリエンタリズムなどによって、文学作品の根底にある帝国主義やジェンダー意識が見えてつくづく考えるようになり、高度な国際意識を持っている日本社会にもしんから感心した。

前期の日本語コースの講義に集中し、続いて後期の日本語文学中心の学習を通して、この一年間の交換留学の目的をうまく達成したと思う。

## 二、日本・沖縄歴史文化の滴嗅

日本語コースの授業以外でも、日本事情及び沖縄事情の講義で、日本社会の根底にある深層文化と沖縄での豊富な歴史文化をも勉強してきた。日本事情では、「社会」、「個人」、「権利」などの言葉と、「世間」「義理・人情」などの言葉には大きな違いがあると分かった。一方、沖縄事情では、先生方のおかげで、独特な文化を持っている沖縄の過去・現在・未来のビジョンについて学ぶことができた。

なお、毎年6月になると、琉球大学の特色プログラムだと思われる「平和学習」が行われ、沖縄戦を中心にして研究成果の発表、戦跡の見学などの形で授業をやっている。以下では、沖縄事情で勉強した歴史文化を踏まえて感想を述べたいと思う。

### コココーラと沖縄

1945年太平洋戦争は終焉を迎え、敗戦の空気が漂っている沖縄は、米軍に統制をスタートさせていった。沖縄市ヒストリーットの雰囲気のおかげで、自分の出身地の台湾・高雄県にある岡山の軍用飛行場、戦闘機のことを思い出されてきた。

アメリカ統治の覚え書きとほぼ同時の1946年10月に、コカ・コーラ日本支社から初代マネージャー、R.O. スペンサー氏が着任した後、工場の建設及び商品の製造・販売が開始された<sup>1</sup>。物流の流通拠点として「關市場」が「供給－需要」のために自然発生し、民間での販売の認められていなかったコーラは、ほかの島産品とともに流れて販売されてきた。その關市場の一つが、現在の那覇市国際通り脇の「平和通り」界隈に発展したそうである<sup>2</sup>。

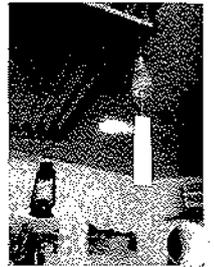


<sup>1</sup> ヴィキペディア百科事典、  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A1%E5%B1%B1%E5%9F%BA%E5%9C%B0>, 20090520。

<sup>2</sup> 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社、[http://www.okinawa.ccbc.co.jp/history/1\\_2.html](http://www.okinawa.ccbc.co.jp/history/1_2.html), 20090519

戦後の沖縄では、ウチナーの人々は、物質の不足による生活難から抜け出そうとするためになんとかしなければならぬと言う意識が高まりつつ、使用できなくなるコーラの瓶を利用し始め、生活道具や実用的な製品を作った。風鈴、ほかのガラス製品はすぐに駐在米軍の目にとまり、次々と注文するようになった。風鈴をはじめ様々なガラス製品のおかげで、沖縄の代表的な民芸品のひとつ、現代琉球ガラス工芸が芽生えた。

コカ・コーラは、米軍進駐と同時に沖縄に入ってきた。何十年が経ち、アメリカ本社に負けず、沖縄現地の飲料生産の大手会社であるコカ・コーラボトリングは成長し活躍している。沖縄地域社会の発展に協力したり、「高松宮杯全日本中学校英語弁論大会」の協賛や、「沖縄青少年映画育成協議会」の事務局担当をしたりすることを事業の一環として社会奉仕活動を投入した。長い目で見ると、「地域社会との共生共栄」を中心にしており、沖縄の資源と人材に恵まれているからこそ企業がうまく成長できるので、恩返しとしてバックするということは、地域社会の発展に対する公共の利益ともいえよう。だが、文化面から考えれば、アメリカ系、しかもこのような大手会社が沖縄に進出したのは、グローバリゼーションを通して強い文化侵略の一種なのではないかと思う。



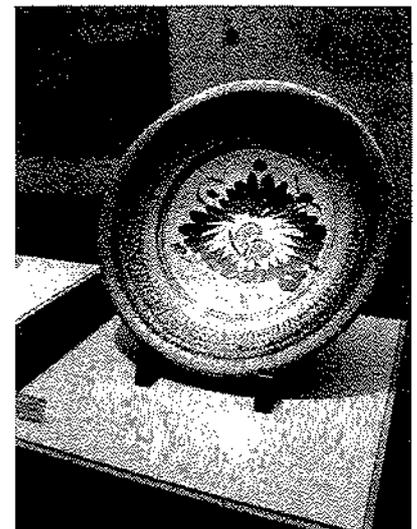
戦争中、物質の不足によってコーラの瓶でコップなどの生活道具の製造をはじめ、戦闘機の残骸をも利用してスプーンなどの生活道具も作っていたそうである。伊敷さんの案内で話しを聞かせてもらい、なんだか悲しい気持ちが湧いている気がした。

#### 壺屋焼物とその街

壺屋焼物博物館で、「沖縄戦前の壺屋の女性たちの仕事と暮らし」、「沖縄戦前の壺屋の男性たちの仕事と暮らし」、また「沖縄戦後の壺屋」と「壺屋の未来」について、4つの歴史テーマから構成された映像を見た。

大変な趣がある映像だと思う。

民芸運動家としては、柳宗悦をはじめ、人間国宝である金城次郎まで、彼らは壺屋焼きが「用の美」と呼ばれる実用性及び芸術性を兼ねる日用雑器に光を照らそうとしていた。



庶民の生活道具で鮮やかな色彩が目目を惹くほどまで装飾性を兼ね揃えるものだと強調していたそうである。全体的に、「仕事と暮らしの移り変わり」を中心に物語りが展開され、民芸運動家らによる主張に応じて答えるようになった。



### 「ぶくぶく茶」の体験

田中千恵子先生に「ぶくぶく茶」の点て方を教えていただいた。すばらしい「ぶくぶく茶」の体験をした。

自分が想像したぶくぶく茶は、台湾の客家人がよく飲んでいる伝統的な飲み物であり、ご飯また他の客家の日常料理を加えて混ぜた「客家擂茶(ke-Jia-Lei-Cha)」のことだ。体験当日に、実際にぶくぶく茶の内容を見て、大間違いだと分かった。完全に先入観にとらわれた。

文化体験講座のため、那覇市内にある茶道の先生のところで茶道を体験させていただいてからというもの、抹茶のことにもう一度魅了され、再び好きになってきた。



抹茶には独特な香りと苦味があって、いつもその芳醇な味わいを楽しんでいる。抹茶オレ、抹茶アイスクリーム、抹茶ドーナツ…いろいろな抹茶味付けの食べ物、何でも飽きるまで食べるのをやっている。

玄米を程よく炒った煎米湯であっさりとした風味が出るぶくぶく茶は、抹茶の濃厚さと完全に異なって、口に合わないまでも、深い味だ。素朴で、しつこくない風味ならではのぶくぶく茶は、常に蒸し暑い沖縄の気候、風土及び人情に一番適するであろう。

### 浦添城跡

1460年、中山の尚巴志が戦争に勝って、「琉球王国」は一つの王国となった。尚巴志がお城を浦添城から首里に移すまでの約220年間使われ、浦添グスクは第一尚氏王朝が統治する王国の中心となっていた。この歴史を知っている人はめったにいないそうなので、浦添城跡に来る人も多くないようである。

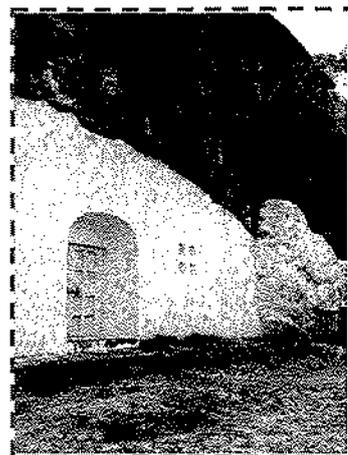
ようどれに入る前に、前庭からトンネルのような形である「暗しん御門」を通るべきである。パフレットに載せる写真を見て、まるで「あの世」に行くような雰囲気であったが、沖縄戦で上部の岩は崩れてしまったので、暗い雰囲気が消えてしまう。そこに立ち上がったなら、思わずに「この先、一体、どこまで行けるだろうか」という感覚が心から湧き上がってきた。

なんとなく、広大な宇宙に吸い込まれるような、奇妙な感覚にとらわれた。



浦添城跡・暗しん御門

もっとも興味津々だと思うのは、「ようどれ」という言い方であろう。「ようどれ」とは、琉球語の「夕凧」であり、中国語を翻訳する際に、非常に困難である。博士課程在籍のチューターから聞いたところによると、「幽土陵」という訳名が一番相応しいのではないだろうかと言った。「幽土」は、死者の世界、冥土のことであり、「陵」とは、お墓のことである。「幽土陵」の発音は、「ヨドゥリン」ということで、本来の「ようどれ」の発音と似ていると思っているからである。



浦添ようどれ

首里城見学するとき、金城町石畳の道にも行って来た。浦添城にある石畳道の雰囲気とはまったく異なっていると思う。王朝の中心である首里城なりの賑やかさを強く見せている。それに対して、浦添城にある石畳の道は、静かで穏やかな雰囲気が漂っている。去る沖縄戦では、安茶波橋や浦添城跡などが破壊され、大きな被害を受けたから、ここにいる我々は復元のレプリカしか見られない。もし、その戦争がなければ、どんなすばらしい遺跡が見られたんだろうかと思いつつ、復元のレプリカの遺跡に向ってそう呟いた。

### 三、学内、外の活動

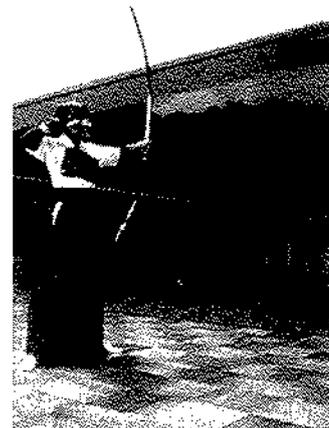
琉球大学在籍の一年間、様々な学内、外の活動に参加し、どちらでも有意義で貴重な経験であった。



2009年4月に、部活は、留学生活とも同時に始めていった。台湾にいた時、日本の伝統的な武術である弓道をやりたいと思ったが、それを教える師匠や稽古場を持たずに一時的にその学び心を捨てた。だが、幸いなことに、チューターの紹介で琉球大学の全学弓道部に入部させていただき、弓道部で活動し始めた。

初心者として、週に3回の練習時間を合わせて弓道場に向って行くようになった。少しでも早く、的前に上がりたいと思って練習していた。最初は、ゴム弓を引っ張って放す稽古が続き、手順を踏まえて練習に入った。

実際に弓を持たせてもらえる素引きの練習を続けて、さらに一歩進んで表わらに向って矢を当てて、ついに、的前に上がって本当に28メートルのところにある的を狙って的当てするようになった。留学生活も半年間を過ごした。ようやく2009年の年末に開かれる百射会という行事に参加するようになった。



弓道の稽古中

弓道と言うのは、的に矢を当てて楽しむ事だと思っていた。でも、留学生の自分にとっては、弓道部の先輩方のお陰で楽しい弓道体験を満喫させていただいたのは何よりである。お稽古を一緒に受けている仲間には、やさしい声をかけ、気を遣って弓術の学習をご指導くださり、非常に楽しい部活を過ごさせていただいた。



2010. 02. 10 平成 21 年度弓道部卒業集合写真 先輩方



2009. 10. 03 琉大祭

前期の留学生チームワークである劇の発表では、共同の目標を持ち、それを成功させるために、先生方とクラスメート全員が一つになって頑張ることは、一番楽しくすばらしいと思う。達成感があつたことは言うまでもなく、劇のためあらん限りの努力をしたり、あらん限りの知恵を絞ったりしている姿を見せてもらい、非常に感動した。劇のスナップ写真を見るたびに、みんなで楽しい時間を過ごしたり、セリフを工夫したりしたことを思い出さずにはいられない。

さらに、日本語の勉学の集大成であれば、留学生生活の代表作でもある日本語スピーチ大会にも出場した。スピーチ大会の準備では、大学の教授として多忙な先生方は、出場者により一層厳しく指導してくださった。



2010. 01. 29 平成 21 年度琉大日本語スピーチ大会

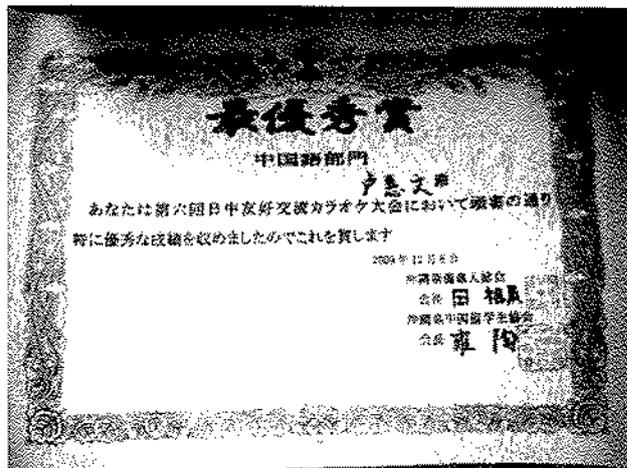


2009. 06. 26 留学生チームワーク『鶴の恩返し』劇の発表

学内の留学生活動以外には、第一回豊見城市日・中・韓交流カラオケ大会、また華僑華人総会と中国留学生協会の共同主催による第六回日中交流カラオケ大会にも参加した。



2009.07.25 第一回豊見城市日・中・韓交流カラオケ大会



2009.12.06 第六回日中友好交流カラオケ大会

会場までお越しいただいた台湾人留学生のみんなから、たくさんの応援が殺到した。そのお陰で、2009年7月並びに12月のカラオケ大会で、すべて良い成績を取って優勝した。中国人は日本語の曲を、日本人は中国語の曲を歌うことによって、音楽を通して交流を図ることを実感した。

#### 四、交流体験

2009年9月下旬、久米島ホームステイプログラムが行われた。留学生は1家庭2名ずつステイした。2泊3日という短い期間でステイしたが、久米島にあるチャームスポットは、熱帯魚の家、海がめ館、久米島絨展示資料館、沖縄県指定重要文化財である畳石などを一気に回ってきた。ステイ家庭の平田家一家のお陰で、楽しい3日間を過ごさせていただき、久米島住民との楽しい交流経験をも得てきた。



2009.11.08 沖縄地域留学生交流親善会



移民の日 交流会

アジア諸国など海外留学生・沖縄県費留学生として沖縄地域留学生交流推進親善会、移民の日交流会にも出席した。日系人である留学生はもちろん、沖縄に留学している世界各国からきた留学生たちと一堂に会いし、お互いに話しかけたりした。沖縄の移民文化、その歴史をより一層深く理解でき、世界各国から来た留学生と交流して自分の視野も広げようになっている。

地域交流活動以外には、沖縄台湾人移民に関する活動にも出た。戦前台湾に住んでいた沖縄県民が、台湾への感謝の気持ちを込めて沖縄台湾会を成立した。旧暦新年会の手伝いをしたとき、みんな一堂に会し、台湾語をしゃべったりして沖縄と台湾の深いつながりを再び実感した。台北駐日経済文化代表処那覇分処の李明宗処長の主催による留学生向けの交流パーティーもあり、台湾人華僑と交流できたり、食事したりするようになる。常に生活費に悩んでいる留学生たちには、温かみを与えてくれ、心を込めて感謝の気持ちを抱いている。



台北駐日経済文化代表処那覇分処 李明宗 処長（左） 余 震甫 組長（右）

#### まとめ

台湾から来た沖縄県費留学生として、この一年間の留学生生活は、非常に充実していた。前述通りに、厳しい日本語コースと先生方、真剣勝負の部活、日本文化及び沖縄事情満喫の日々を過ごせ、毎日は、「かけがえのないニューデー」である。苦しいことであれ、楽しいことであれ、すべては貴重な留學生活の思い出の一つとして大切にしたいと思う。沖縄県庁、国際交流・人材育成財団、中琉文化経済協会、台北駐日経済文化代表処那覇分処には、大変お世話になったこの一年間、心から感謝の気持ちを申し上げたいと思う。

### 「寮生活」

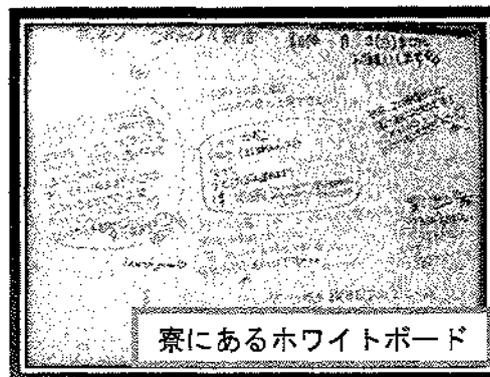
琉球大学には、短期留学生が住んでいる国際交流会館と、一般的な日本人学生が住んでいる寮があります。私たち県費留学生は日本人の学生と一緒に寮に住むことになっています。最初は会館に住むと留学生の友達と同じ所に住めるし、寮より新築だし、それから、寮では掃除当番制になっており、各階交代で掃除をしなければなりませんので、どうして私たちは会館ではなく寮に住むか、最初は不満も不安もありました。



寮のみんな

しかし、すぐ寮に住むことこそ体験できることに気づきました。同じ階に住んでいる12人が一つのユニットになり、お風呂場などの掃除を一緒にしたり、炊事場で一緒に料理をしたり、リビングで学校の出来事を話し合ったりして、いつの間にか寮に帰るとほっとする自分がいました。

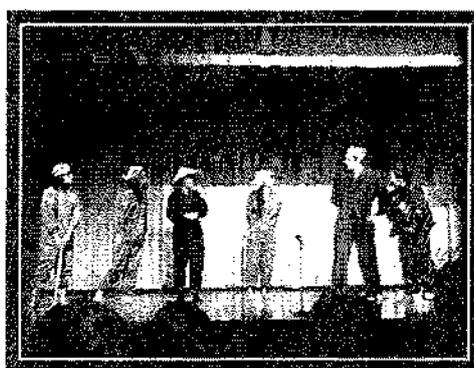
寮に住んでいる皆は、各自の授業やバイトで忙しいですが、毎晩ちょっとした会話を交わしたり、誕生日会を行ったり、困ったことがあったら、ホワイトボードにメッセージを書くと、皆はすぐ私のことを励ましてくれて、支えてくれて、家に遠く離れて留学している私の心の中に、寮の皆は私の家族のような存在です。寮に住んでいて、本当によかったと思います。



寮にあるホワイトボード

## 「勉学」

琉球大学での日本語授業は、日本語の「聞く、話す、読む、書く」の能力を高めるために、ニュースの聞き取り、同義語や似た言葉の使い分け、日本文学小説の閲読などの授業を分け、全面的な勉強ができました。また、他にもクラスの皆で日本語プロジェクトという企画で、「鶴の恩返し」という劇などいろいろな活動をやりました。



劇の台詞を覚えるどころか、すらすらと読み上げることさえできませんでした。人前で劇をすることを考えると、つい緊張してしまいました。しかし、仲間たちと稽古を何回も繰り返して、だんだん舞台に立つ自信が持てるようになったのです。

## 「異文化との比較」

また、「沖縄事情」という授業で先生と一緒に「神の島」と呼ばれる久高島に見学に行く機会がありました。島巡りしながら、特有の祭祀文化を勉強しました。そして、この祭祀文化は台湾先住民の文化と似ている点があることに気が付きました。

私は台湾の一番南の方に住んでいるパイワン族という先住民族です。1871年台湾に漂着した琉球人がパイワン族の襲撃を受ける事件がありました。その事件からおよそ130年の時を経て、パイワン族の私が県費留学生として、沖縄に留学していることに感慨深いものを覚えていて、悲しい歴史は変えることはできませんが、私を通して沖縄県民と台湾先住民族の間の架け橋になり、平和な未来を作ったらという使命を与えられているような意識を持っています。



久高島の御殿



台湾先住民の祖霊屋



久高島のノロ



台湾先住民の祭師

このように、久高島の文化と自分の文化と比較してみたら、共通点をたくさん見つけて、異文化を体験するだけではなく、自分の文化を見比べて、改めて自分の文化を見据えることができ、すごく考えさせられる見学でした。台湾に帰ったら先住民族の家族に教えたいと思っています。

### 「自分の文化への誇り」

このような思いをもって、私は台湾先住民の伝統服装を着て、外国人による弁論大会に参加しました。弁論大会のために、先生方は毎日遅くまで私たちの練習をサポートしてくださって、スピーチの内容を確認してくださったり、一つ一つ単語の発音やイントネーションを修正してくださったり、普段の会話でも正しく発音するように意識するようになって少しずつ自分の日本語力の向上を感じました。



外国人による弁論大会

何より、私はこの弁論大会を通して、沖縄に来てウチナーンチュと台湾先住民について考えていることを皆に伝えることができました。それから、会場の皆さんに私の母語を言っていただいて、達成感と充実感があって、涙が出るほど嬉しかったです。

### 「言葉が大好き」

新学期に入り、私は琉球大学法文学部の研究生として、言語学や異文化コミュニケーションなどを勉強し始め、言語学に大変興味を持っている私は琉球大学で多様な言語や文化を勉強することができました。「琉球語入門」という授業で宮古島方言を学びました。日本語と全然違って、発音や文法などは非常に面白く思いました。宮古島方言はまだまだ全然話せませんが、新しい言語に出会う時の新鮮感、そして他の言語との比較について考えるとわくわくしていました。

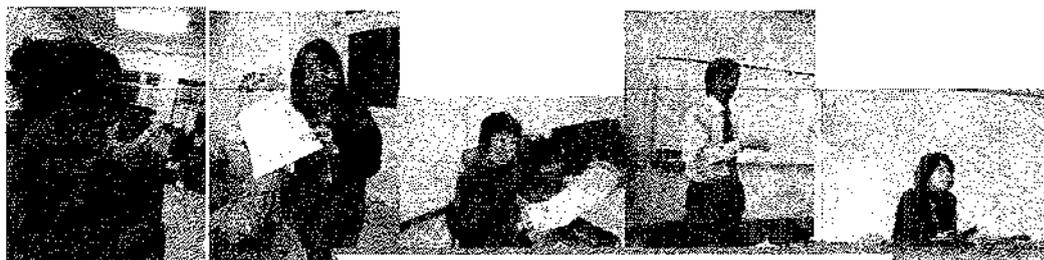


また、研究生の論文発表で、私は台湾ファッション雑誌での日本借用語を分析し、台湾人の使用意識を調査することにしました。そして、授業でウチナーヤマトウグチについて研究することになり、沖縄人の話し言葉にすごく興味が湧きまして、沖縄人の友だちといつもウチナーヤマトウグチについて話していました。

私は、この1年の留学を終えて、大学院での研究はもとより、外国人日本語学習者の視点から、特有な日本語コミュニケーションを研究し、中国語と日本語との両言語間の比較、さらに台湾先住民の言語も研究に取り入れたいと思っています。自分なりの分析を行い、社会や国や台湾先住民族に貢献のある研究成果を出すことができたらと思います。

この1年間、財団の方、沖縄で出会った人々のおかげで、一生忘れられない思い出ができました。大変お世話になり、心から、感謝の気持ちを申し上げます。

にふえーで一びる。



いつも見守ってくださった先生方

平成21年度 沖縄県海外留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒901-2221

沖縄県宜野湾市伊佐四丁目2番16号

TEL : 098-942-9215

FAX : 098-942-9218

